

- マン・フィルタ)
- ENSO: El Niño Southern Oscillation (エルニーニョ南方振動)
- ETKF: Ensemble Transform Kalman Filter (アンサンブル変換カルマンフィルタ)
- ETH: Eidgenössische Technische Hochschule (スイス連邦工科大学)
- IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change (気候変動に関する政府間パネル)
- IRI: International Research Institute for climate prediction (米国国際気候予測研究所)
- JAMSTEC: Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (独立行政法人海洋研究開発機構)
- JST: Japan Science and Technology Agency (独立行政法人科学技術振興機構)
- LEPS: Local Ensemble Prediction System (局地アンサンブル予報システム)
- LLNL: Lawrence Livermore National Laboratory (米国ローレンス・リバモア国立研究所)
- LMD: Laboratoire de Météorologie Dynamique (フランス気象力学研究所)
- MM5: The PSU/NCAR Mesoscale Model (アメリカ PSU/NCAR メソスケール・モデル)
- MSC: Meteorological Service of Canada (カナダ気象局)
- NASA: National Aeronautics and Space Administration (米国航空宇宙局)
- NCAR: National Center for Atmospheric Research (米国国立大気研究センター)
- NCEP: National Centers for Environmental Prediction (米国国立環境予測センター)
- NRL: Naval Research Laboratory (米国海軍研究所)
- PCMDI: Program for Climate Model Diagnosis and Intercomparison (米国 LLNL 気候モデル解析及び相互比較プログラム)
- PEPS: Poor man's ensemble prediction system (経済的なアンサンブル予報システム)
- PDF: Probability Density Function (確率密度関数)
- PSU: The Pennsylvania State University (ペンシルバニア州立大学)
- QUMP: Quantifying Uncertainty of Model Prediction (モデル予測に伴う不確定性の定量化)
- ROC: Relative Operating Characteristic (相対作用特性)
- SRNWP: Short-Range Numerical Weather Prediction Program (短期数値天気予報プログラム)
- STAD: STABLE Inference based on Data (観測データに裏付けられた(確率的)予測)
- SV: Singular Vector (特異ベクトル)
- THORPEX: THE Observing system Research and Predictability Experiment (観測システム研究・予測可能性実験)
- TIGGE: THORPEX Interactive Grand Global Ensemble (双方向大全球アンサンブル)
- UKMO: United Kingdom Met Office (英国気象局)

支部だより

2004年度九州支部発表会の報告

2005年3月5日(土)に福岡市の福岡管区気象台で標記発表会を開催した。プログラムは次のとおりで、例年とほぼ同数の16題の発表があった。内容は、モデルによる数値シミュレーションから降水粒子や黄砂の観測、防災システムの利活用など多彩であった。また、平野 博氏(日本気象協会九州支社)に「九州の地形と天気特性」と題して特別講演を行っていただいた。席上、九州支部奨励賞の授賞式を行なった。今年度は、日常的な気象知識の普及・防災意識高揚に向けての精力的な実践は奨励賞授与に値するものとして、松嶋憲

昭氏(本州四国連絡橋公団)に賞状と記念品を贈呈した。

当日は悪天であったためか、参加者は46名と例年よりやや少なかった。今回は大学の研究者による発表が特に多く、他の分野からも気軽に発表できるような環境を作っていくことが課題といえる。支部発表会は広い分野の発表を聞くとともに、異なる分野の会員同士の親交を深める場であることから、来年度もより多くの会員による発表をお願いしたい。

2004年度九州支部発表会プログラム

セッション I

1. 梅雨期九州近海上におけるメソ対流系の形態に関する研究
川口和哉・川野哲也 (九大院・理), X-BAIU-01/02 観測グループ
2. X-BAIU-02期間中に観測された雷活動について
上野直子・川野哲也 (九大院・理), 鈴木賢士 (山口大), X-BAIU-02観測グループ
3. 2004年6月27日に佐賀で発生した竜巻の数値シミュレーション
下瀬健一・川野哲也 (九大院・理)
4. 平成16年6月27日に佐賀県で発生した竜巻事例のNHMによる解析
川添剛司 (福岡管区気象台)
5. 2004年11月11日, 鹿児島県種子島南部で発生した集中豪雨の事例解析—ミニ・スーパー版NHM (気象非静力学モデル) を用いて—
用具敏郎 (鹿児島地方気象台)

特別講演

九州の地形と天気特性

日本気象協会九州支社 平野 博氏

セッション II

6. 中規模都市における静穏冬季の夜間冷却率について—熊本市と鹿児島市の事例より—
今里喜之 (熊本大・自然科学研究科), 富田智彦 (熊本大・理)
7. 有明海干潟上の乱流フラックス観測
成松 明 (熊本大院・自然科学研究科), 田中健路 (熊本大・工), 滝川 清 (熊本大・沿岸域環境科学教育研究センター)
8. 沿岸域における海塩粒子生成率の推定について

野中善政 (宮崎大・教育), 大河内康正 (八代工業高等専門学校), 川崎拓哉 (宮崎大・教育学研究科)

9. 海洋地球研究船「みらい」MR04-08観測航海における雲物理観測
鈴木賢士 (山口大), 米山邦夫 (海洋研究開発機構)
10. 2004年台風23号により瀬戸内海東部沿岸地域で発生した豪雨災害の特徴
山本晴彦 (山口大・農), 牛山素行 (東北大院・工学研究科), 岩谷潔 (鳥取大院・連合農学研究科)
11. 2次元熱対流の安定性—Thompson mechanism に関連して—
山根ゆり (九大・総理工), 和方吉信 (九大・応力研)

セッション III

12. ブロッキング維持機構における総観規模擾乱の役割について
川田ふみ (九大・総理工), 伊賀啓太 (九大・応力研, 現所属: 東大海洋研)
13. 帯状非一様な基本場の下での対流圏と成層圏の相互作用
山木美弘・伊藤久徳 (九大院・理)
14. 黄砂の長期変動のシミュレーションと気候因子との関連
原 由香里 (九大・総理工), 鶴野伊津志 (九大・応力研)
15. OPC データでみた最近4年間の長崎地方の黄砂現象: 2001~2004
荒生公雄・片岡和志 (長崎大・環境), 石坂丞二 (長崎大・水産)
16. 気象・河川水位情報システムの整備状況と防災への利活用
山本晴彦・東山真理子 (山口大・農), 岩谷 潔 (鳥取大院・連合農学研究科)